
赤 潮 情 報

鹿児島県水産技術開発センター
平成 17 年 6 月 2 日

鹿児島湾 No. 5

[1] 6 月 1 日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

全調査点で赤潮による着色域は確認されませんでした。

全体的に前回調査時(5/24)に比べセラチウム属の細胞数は減少傾向にありましたが、牛根沖では増加していました。また、前回調査と比べ湾央部においては珪藻類が増加していたのに比べ、湾奥部については珪藻類が大きく減少していました。

なお、ヘテロシグマ アカシオ、シャトネラ マリーナなどの有害プランクトンは確認されませんでした。

(2) 海 況

表層水温は湾奥部で20.7～22.2℃、湾央部で21.5～22.4℃と平年同時期に比べやや低めとなっています。また、塩分は32.6～34.0で平年同時期に比べやや高め。透明度は平年同時期と比べ高めとなっています。

水 温：平均	21.8℃	湾奥部	21.7℃	湾央部	22.0℃
塩 分：平均	33.0	湾奥部	32.8	湾央部	33.8
透明度：平均	10.2m	湾奥部	11.2m	湾央部	7.0m

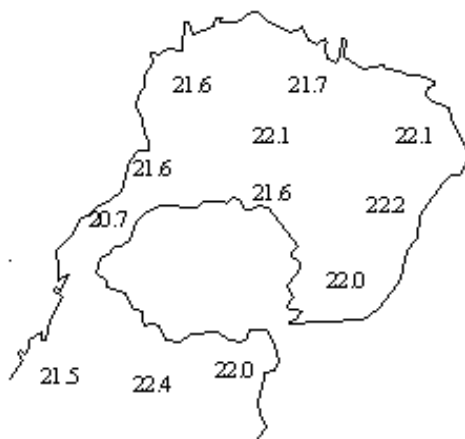
(平年値は平成1～16年6月の平均値)

[2] 今後の赤潮発生の予想

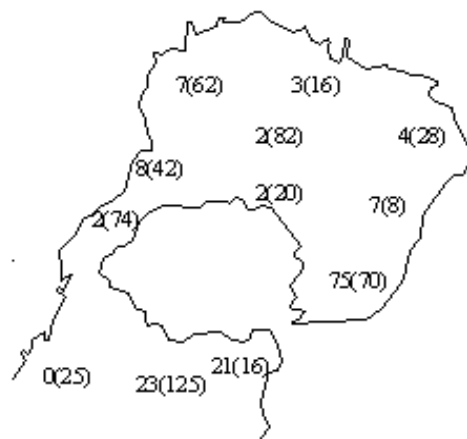
依然としてセラチウム属(優占種はセラチウム フスス)の細胞数が多い状況にあります。

今回調査では、湾奥部の透明度が平年値に比べ高め(+6.2m)となっており、また、DO(溶存酸素)も低い状態にありました。検鏡結果からも、植物プランクトンが少ないことを考えると、特に湾奥部については競合生物が少ない状況にあると推察されます。また、今後、梅雨に入り陸域からの栄養塩の供給や水温上昇により、特定のプランクトンが爆発的に増えることも考えられますので、海の色や養殖魚の状態等に対する十分な注意が必要と思われます。

一方、シャトネラ マリーナは、細胞が確認されていないことからしばらくは本種による赤潮の発生はないと思われます。



表層水温 (℃)



セラチウム属表層細胞数(優占種はセラチウム フスス)
[cells/ml, ()内は10m 層]

赤潮情報：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>